

スタートラインに立つことの価値を知る

堀内 公平 電気通信大学総合情報学専攻

学生会員。電気通信大学人間コミュニケーション学科卒業。2009年度学長賞。同年上期未踏ユース。Interop2010 クラウドコン IBM 特別賞。2010年度日本ソフトウェア科学会高橋奨励賞。クラウド、UX、哲学に興味津々。
hamhei.horiuchi@gmail.com

これを書いている現在、僕はアメリカのシリコンバレーでエンジニアをしています。しかし、僕は大学に入学するまでパソコンを触ったことがなく、2年前に未踏に採択されるまでソフトウェア開発の経験もほとんどありませんでした。そんな僕が大学を休学し単身で異国に渡り研究開発を仕事にしているのだから、人生は何があるのかわかりません。今回は、僕が今に至るまでの経緯を簡単にお話したいと思います。

未踏との出会い

大学3年生の研究室訪問のとき、ある未踏採択者の先輩から未踏の話を知りました。数日後には未踏提案書を用意して研究室を再度訪問し、僕のこれまでのすべてを否定されるかのような勢いで叩かれました。一切の遠慮ない駄目出しを根気よくしてくれる師匠が近くにいたことは幸運でした。結果、僕は未踏に採択されました。

MyCloud の挑戦

僕の未踏のテーマ『MyCloud』は、簡単に言うと「すべてのデータは面倒だから他人（クラウド）に預けたいけど、自分の個人情報を一切他人（クラウド）に渡したくない」というユーザ（僕）のエゴを貫くための分散ストレージです。「ただ自分が欲しいから作る」という姿勢を評価され、同提案の改善版をクラウドコンピューティングコンペティション（CCC）に出すことを勧められました。CCCでは、主な競争相手が企業の研究所の方だったり、審査のポイントが純粋な技術的新規性だったり、これまで自分に要求されていたものとの違いに戸惑うこともありましたが、それでも2カ月の開発期間の中で"GoogleやAmazonなどのベンダにユーザ側で自由に橋架けをし、それらを効率的に使い倒すためのアルゴリズムの提案と実装"など、手探りながらどうにか成果を残し、CCCでは特別賞を貰うに至りました。

僕が未踏やCCCなどに挑戦しなければいけない理由は何もありませんでしたが、挑戦して失うものは何もない

かつし、挑戦自体を後悔したことも一度もありません。

Yesしか言わない運動

その後は講演の依頼や仕事のお誘いなど、にわかにか声を掛けられるようになりました。僕はふと「すべての機会を引き受けたらどうなるだろう」と思い立ってしまい、それからはとても忙しい日々でした。色々なベンチャーで働かせていただき、ほぼ毎日開発合宿をし、誘われた旅行に即日行ったら全員知らない面子だった、などなど。

中でも fluxflex の久保溪氏との出会いは印象的でした。久保氏が「シリコンバレーでスタートアップをしています」と挨拶し、僕が「雇ってください」と言いました。いま思うと海外への漫然とした憧れの正体を明らかにしたいという衝動に駆られたのでしょう。その日のうちに僕の一度目のシリコンバレー行きが決まりました。久保氏からは日米のスタートアップ事情など多くのことを学び、僕はいよいよ外の世界をもっと知りたいと思いました。そして先日、シリコンバレーでエンジニアのインターンの公募を見つけました。定員は1名で英語が相対的に得意でない僕ははっきり言って通る自信はありませんでしたが、応募することには一切の躊躇いはありませんでした。幸運にも選考を通過し、いま僕はここにあります。

スタートラインに立つことの価値

僕が人生で常に心がけていることは『躊躇をしないこと』です。『何かを始めるときに一切迷わない』というだけで、「やらないための言い訳を探すのに忙しい大多数の人たち」が持っていない強みを持っていることができます。もちろん楽なことばかりではありません。どんな環境でも底辺から始まります。重なった責任に押し潰されそうなこともあります。それでも今の自分を変えたいと思ったら、『Yesしか言わない運動』を試してみてください。自分を巡る環境の劇的な変化、変わらざるを得ない自分と、向き合うことができるでしょう。

(2011年9月8日受付)